

## 【博士課程前期】地域コミュニティ・イノベーションプログラム

### 【アドミッション・ポリシー】

本プログラムは、社会起業、ローカル・ビジネスの創出等のコミュニティ変革、及び、調査の実施、解析、解析結果にもとづく政策や戦略を分析、評価できる新しいタイプの高度専門職業人または研究者の育成をその基本理念とする。また、自治体・企業・地域等との連携研究プロジェクトを積極的にプログラムに導入し、現場主義にもとづく、実践的な教育にも重点を置く。本プログラムは、このような理念や考え方にもとづき地域やコミュニティの牽引を志す者を、広く社会人を含め受け入れる。これにより、地域や社会が抱える様々な課題を発見し、問題解決のための定式化を行い、持続的なコミュニティ・システムの構築能力、科学的根拠に基づいた創造的な地域政策、及び企業戦略の提言能力をもち、地域を牽引する人材の輩出を目指す。

### 【カリキュラム・ポリシー】

本プログラムは、「地域コミュニティ・イノベーション学」を構成するために、社会学、文化人類学、商学、経済学、データサイエンスなどの諸分野を横断的に融合させる。加えて、現場の視察やフィールド調査、地域や企業を含めた現場との議論を行う科目を導入する。これにより、従来型のカリキュラムでは実現不可能であったコミュニティや地域を創造的に変革させる能力育成のための体系的な学際のカリキュラムを構成する。

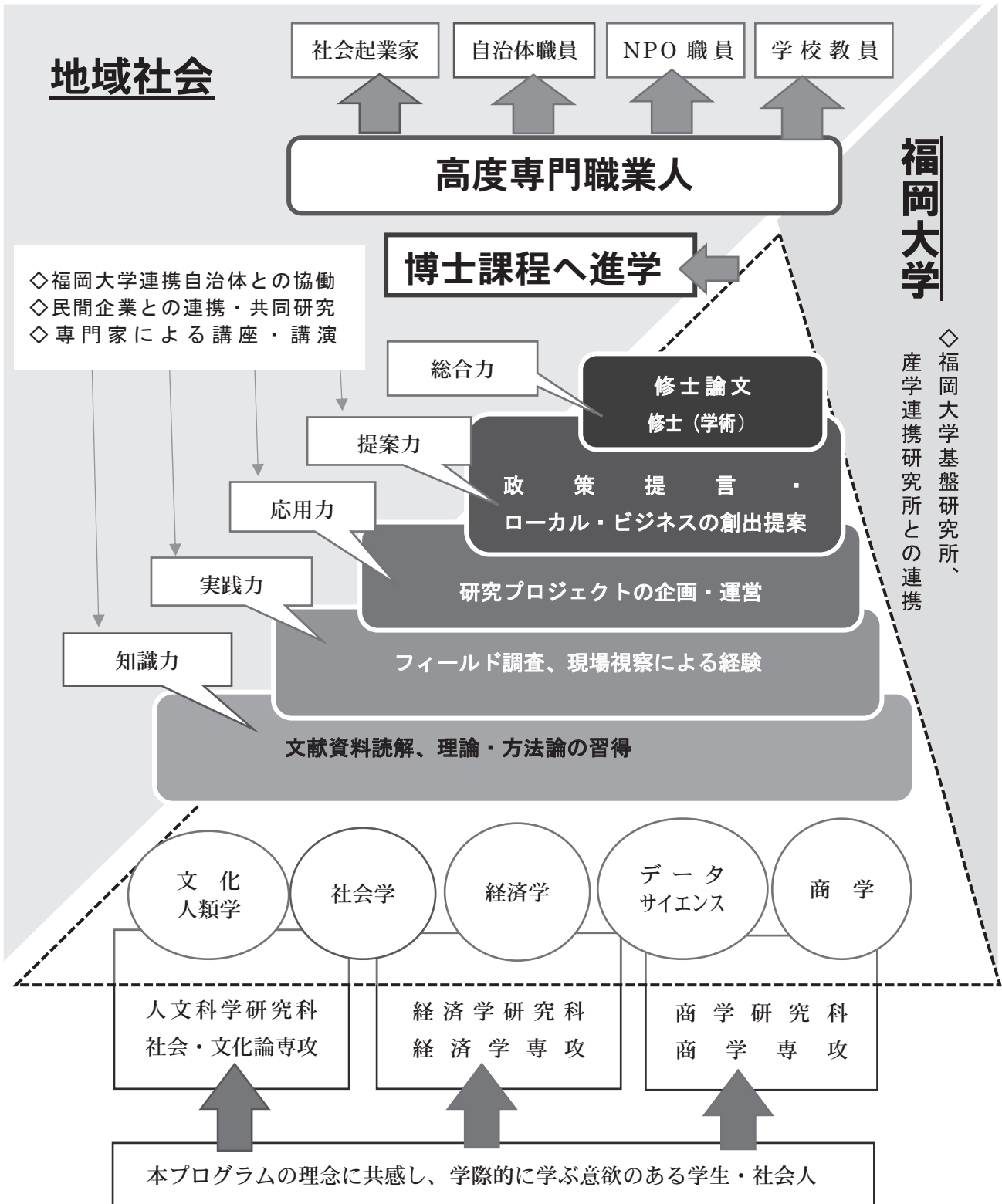
### 【ディプロマ・ポリシー】

持続的な地域社会システム創成、科学的根拠に基づく地域政策や企業戦略考察のための理論、モノの見方、具体的な分析方法等の修得を通じて、高度専門業務に従事するために必要な知識力・実践力・応用力・提案力・総合力を身につける。その研究活動の成果を修士論文としてまとめさせ、修士(学術)を授与する。また「専門社会調査士」の資格取得も視野に入れる。

研究科	授業科目	単位	担当者	授業概要
人文科学研究科	都市生活文化学術特講	4	教授 高岡 弘 幸	現代日本の「都市」はどのような変化を経て、成立したのだろうか。そして、人びとの暮らしはどのように変化してきたのだろうか。また、衰退する一方の地方都市の再生(新生)は可能なのだろうか。本講義ではこうした問題を、民俗学を中心として、文化人類学や歴史学、社会学、建築学(都市史)などのテキストを講読することにより考えてみたい。
	地域社会調査学術特講	4	教授 平田 暢	地域におけるアンケート調査を念頭に、社会調査の種類やその特徴を学び、社会調査の目的と作業仮説の立て方、尺度の構成と測定、標本抽出、調査データ整理の方法といった手続きを、より専門性の高いレベルで検討する。社会調査を計画する作業を通して、特定の社会現象をもたらすメカニズムや因果関係を考える方法に親しみ、仮説を立てることのできる思考力の深化を目指す。
	比較社会論学術特講	4	教授 平 兮 元 章	ベトナム戦争以前と以後の逸脱の考え方の相違を解説する。
経済学研究科	社会モデル解析学術特講	4	教授 李 明 哲	われわれが住んでいる社会はさまざまな問題を抱えている。これらの問題を数理的に解析し、その本質を探るとともに、効率化という視点から、実際に存在している諸問題の改善あるいは解決を図るのは、社会的・経済的視点から考えて重要な意味を持っている。本授業では、関連文献の輪読を通じて、このような研究内容への理解を深める。
	社会モデル解析学術演習	8		われわれが住んでいる社会はさまざまな問題を抱えている。これらの問題を数理的に解析し、その本質を探るとともに、効率化という視点から、実際に存在している諸問題の改善あるいは解決を図るのは、社会的・経済的視点から考えて重要な意味を持っている。本授業では、そのための数理的・計算機的準備を行い、またこれをもとに比較的単純な応用モデルの構築と解析を進めていく。
	地域計量分析学術特講	4	教授 梶 井 昌 邦	本講義の目的は、根拠(エビデンス)にもとづく政策科学の核となる、地域、都市、そして消費者行動のデータ解析のためのモデル開発を行う基礎的能力を養成することである。本年度は、空間計量経済学やデータマイニング手法、そして計算のためのアルゴリズムを学習し、実際の都市・地域データ適用のための統計モデル開発や理論的拡張について考察する。
	地域計量分析学術演習	8		本演習の目的は、根拠(エビデンス)にもとづく政策科学の考え方にもとづき、実際に地域や企業が抱える問題を解決する能力を習得することである。具体的には、地域計量分析学術特講で学んだ空間計量経済学やデータマイニング等の手法を実際のデータに適用し、分析結果にもとづき地域政策や企業のマーケティング戦略を考察、立案し、自治体や企業に対し提言を行う。

研究科	授業科目	単位	担当者	授業概要
経済学 研究科	社会経済学学術特講	4	教授 姜文源	本講義では、都市と農村の経済組織や文化の違い、都市の産業空洞化とその対策としての創造都市政策、あるいは、文化的発展政策、そしてこれらの面における日本、韓国、中国の差、グローバル社会における望ましい社会経済政策、都市・農村政策について学ぶ。以前の日本はよくムラ社会といわれたが、農村的な組織文化を維持したまま、市場の効率性が保証され経済は成長できるのか、先進国の都市における産業空洞化は都市政策をどのように変えたか、文化市場は経済成長にどのように貢献できるのか、このような問題意識を持っている学生に有益な講義になれると思う。さらに講義ではグローバル社会の観点から、都市経済の問題解決に対する、東アジア諸国の現状、考え方、政策の違いについて論じる。
	ビッグデータと回遊学術特講	4	教授 齋藤参郎	回遊行動とは、消費者が都心部内を買い回る、渡り歩き行動のことである。消費者の回遊行動のメカニズム解明、情報提供による回遊誘発、回遊による経済効果や地域活性化、回遊性にすぐれたまちづくり政策など、消費者の回遊行動に関連する理論、応用研究を回遊行動学とよぶ。本学術特講では、これまでの回遊行動学研究をレビューするとともに、これらの研究成果をビッグデータの時代に対応した回遊アナリティクスとして再構築し、まちの価値を高め、地域を活性化する、イノベティブなビジネスモデルへと展開していく戦略について議論する。
	都市情報論学術特講	4	教授 五十嵐寧史	都市における社会経済的な活動の多くは、電子的なデータとして捉えられる状況になってきた。これらのデータは、マーケティングにも活用可能であるとともに、都市の運営にも有益な知見をもたらす。前者はSNS (Social Network Service)、リコメンデーションサービスなどの手段で取材と問題解決を考察する。後者は自治体組織における情報処理の観点から、その進展とあるべき今後について議論する予定である。
商学 研究科	流通システム論学術特講	4	教授 田村馨	いま流通システムが大きく変わりつつある。産業別、商品別に形成されてきた流通システムはグローバル化、IT化、情報ネットワークの進化によって集約化、短縮化されつつある。日本型流通システムという言葉があったように、各国の特有の流通システムが形成され維持されるといった認識も変えざるをえなくなっている。大きく流通システムが変貌しようとしているのだ。本抗議では、流通システムの変化を点検し、変化を誘発する要因を抽出すると同時に、将来を展望する。
	マーケティング論学術特講	4	教授 村上剛人	この講義ではマーケティング論における企業とユーザーとの関係を中心に、誰が何時どこで商品価値を決定しているのかという点についてこれまでの考え方と近年登場してきたサービス・ドミナント・ロジックの考え方を学習し、共創するマーケティング像を確認してもらう。この学習を通して、地域を商品として見なしたとき、誰が、何時、どこで、どのように価値を創造し、決定しているのか一つの見方を身につけてもらいたい。
	消費者データ分析学術特講	4	准教授 太宰潮	地域を知る上ではそこで活動する生活者・消費者を知ることが欠かせない。本プログラムのうち、調査・分析・科学的根拠を示す能力を養うことを目的とする。統計の基礎からデータマイニングまでを行うが、扱うデータは、本学が保有する非常にリッチな消費者についてのデータを用いる。履修において、数学的な知識は前提となる。文献を読み、外部へ向けての発表なども行いながら、生活者・消費者を知る術や、それにあたって必要な統計学を身に付けてゆく。
	企業と社会学術特講	4	教授 合力知工	企業は社会(ステイクホルダー：利害関係者)と係わり合いを持ちながら存在する。その社会の範囲は「世界」であることもあるし、「地域」であることもある。本講義では、企業とそれを取り巻く利害関係者(ステイクホルダー：株主・顧客・社員・コミュニティなど)との関連性に着眼し、各ステイクホルダーの満足度を高めるような「持続的経営戦略」についての理論を考察し、議論する。
	経営データ分析学術特講	4	教授 福山博文	企業は、顧客や市場のニーズに応えるため、柔軟かつ迅速に意思決定する必要があります。勘や経験だけに頼ってはい十分に対処できません。複雑に激しく変化する状況に瞬時に対処するためには、実際のデータ(資料)を活用し、データの背後にある事実を裏付けられた意思決定を行わなければならないのです。そこで本講義では、企業や組織体などの効率性を評価して経営に役立てることができるデータ包絡分析法を学びます。
	経営管理学術特講	4	准教授 藤野真	本講義は、経営組織における効率的な目的達成のための手段である経営管理を体系的に理解することを目的とする。講義では、文献の輪読を通じ、とくに、企業と社会との関係に留意しながら、(1)企業の社会性、(2)管理の正当性、(3)効率性と人間性について考えていきたい。

# 【概念図】地域コミュニティ・イノベーションプログラム



## 【博士課程前期】東アジア比較文化研究プログラム

### 【アドミッション・ポリシー】

本プログラムは、「福岡」という地の利を生かし、東アジア全域の文化を構成する文学、言語、民俗、宗教、哲学、経済などの諸分野を、比較の視座のもとで幅広く修得させることを目標とする。ここでいう比較は、研究に限定されたcomparisonという意味を超えて、交流や視座の相補性を含むtransactionを意味しており、一定の日本語能力を有し多文化理解に積極的な留学生のみならず、専修分野に対して学部段階で未修得の日本人学生も受け入れ、社会教育・文化交流の振興等を担うことのできる高度専門職業人及び研究者の育成を目指す。

### 【カリキュラム・ポリシー】

東アジア文化圏に関わる諸地域（アジア全般、中国大陸、台湾、日本など）をフィールドとする文化人類学・民俗学、宗教学、思想・哲学、経済史、社会学、文学、言語学系科目を幅広く設定するほか、既に本学もしくは他大学等で博物館学芸員資格（民俗）や日本語教授資格を取得した学生に関してその実践力を強化する専修分野も設け、演習指導教員の履修指導の下に学部教育と連携した調査・研究を生かしたカリキュラム構成を特色とする。さらに、地域連携や社会貢献を旨として地方自治体や各種企業との協力を図り、各演習の中に地域（社会）連携セミナー等も導入する。

### 【ディプロマ・ポリシー】

東アジア文化に関する幅広い知識と、比較（交流）の相補的観点に基づいた課題発掘・調査能力を修得させ、各年度に設けられるプログラム担当教員及び履修学生全員参加を原則とする論文・課題検討会を経て、最終的には修士論文として提出させ、修士（学術）を授与する。

研究科	授業科目	単位	担当者	授業概要
人文科学研究科（日本語日本文学専攻）	日本語学学術特講 a	2	教授 江口 正	言語学の基礎的な研究方法を身につけ、個別言語としての日本語の性質を他言語と対照して明らかにする方法を学ぶ。主として言語構造の諸側面についての講義を行う。
	日本語学学術特講 b	2		言語学の基礎的な研究方法を身につけ、それを日本語教育に生かす方法を学ぶ。言語習得および言語運用の諸側面についての講義を行う。
	日本語学学術特講 c	2		言語学の基礎的な研究方法を身につけ、それを日本語教育に生かす方法を学ぶ。語や文の意味論、および語用論の諸側面についての講義を行う。
	日本語学学術特講 d	2		言語学の基礎的な研究方法を身につけ、それを日本語教育に生かす方法を学ぶ。第1言語習得・第2言語習得と心理言語学・社会言語学の諸側面についての講義を行う。
	比較文学学術特講 a	2	(未定)	
	比較文学学術特講 b	2		
	比較文学学術特講 c	2		
	比較文学学術特講 d	2		

研究科	授業科目	単位	担当者	授業概要
人文科学研究科 (社会・文化論専攻)	日本哲学学術特講	2	准教授 宮野真生子	本講義では、明治維新以降に日本が西洋近代の学問と出会うことで成立した日本哲学を対象とする。具体的には、京都学派と呼ばれる西田幾多郎、田辺元、和辻哲郎、九鬼周造らのテキストを扱っていく。こうした日本哲学を扱う際に重要なのは、彼らがよって立つ西洋哲学の文脈と、日本古来の伝統(仏教・儒学・神道)へのまなごしを理解することである。それによって、近代日本の知の形を明らかにすることが本講義の目的である。
	日本宗教学術特講	2	教授 岸根敏幸	日本の宗教に関わる重要な諸問題について考察する。具体的には、御霊信仰や伊勢信仰などの代表的な宗教信仰、古代日本における仏教の展開に焦点を当てることになるであろう。これらの考察を通じて、日本人の宗教的な特色について探究してゆきたい。
	日本神話学術特講	2		日本の神話を理解するために、古事記神話について考察する。具体的には、神と世界の関係というものを主題として掲げながら、神観念、多様な世界像など、古事記神話の重要な諸問題を扱うことになるであろう。これらの考察を通じて、日本の神話における世界認識の特色について探究してゆきたい。
	日本文化論学術特講	4	教授 植野健造	担当教員が関連する学問領域は、美学、美術史学、芸術学、博物館学などで、特に日本近代美術史を専門の研究領域としている。この授業では、これらの領域を視野にいれながら、より広くヴィジュアルイメージ(視覚的表象)全般に関わる人間活動の歴史と意義について考察を行う。
	比較文化論学術特講	4	教授 宮岡真央子	東アジア諸社会の文化をめぐる諸課題の研究に資する文献の講読を主におこなう。受講生の問題意識の明確化と深化、先行研究の整理・把握と自らの研究課題の位置づけと意義の明確化を目指す。また、適宜担当者・受講生による研究発表もおこなう。
経済学研究科	農村社会学学術特講	4	教授 辰己佳寿子	日本を含むアジアの農村社会における社会経済的現象は複雑であり多面的な分析が必要となっている。本講義では、「経済」を、カール・ポランニー(Karl Polanyi)のいう、経済的な制度と非経済的な制度に埋め込まれ編みこまれている「人間の経済」という広義の意味で捉え、アジアの農村社会で起きている動的な現象をどのように分析していくことが可能であるかを追求する。具体的には、アジアの農村の事例をとりあげ、経済的要素と文化的要素に焦点をあて、さまざまな重層的な社会(個人、家族・親族、組織、国家、国際社会等)の相関を考察していく。
	農村社会学学術演習 【当該年度は春季のみ募集する】	8		演習では、研究テーマを絞り込み、文献研究と農村社会での調査を実施し、実証研究としての修士論文を完成させる。調査の主なアプローチは、「あるく・みる・きく」を基本としたフィールドワークである。
	アジア経済史学術特講	4	准教授 瀬戸林政孝	本講義では、近年、研究上、目覚ましい進展を遂げている近代アジアの経済史について最新の实証研究の成果をもとに講述する。特に、東アジア地域が発展した要因に関して貿易に重点を置きながら講義する。
	アジア経済史学術演習	8		本演習では、近年、研究上、目覚ましい進展を遂げている近代アジアの経済史について最新の实証研究の成果をもとに講述し、18世紀から20世紀前半における東アジア・東南アジアを中心とした社会経済史の把握を目的とする。履修者には、本講義を通じて興味を持った経済事象を取り上げ、テーマを設定し、史料を用いながらレポートを完成させることが求められる。

# 【概念図】 東アジア比較文化研究プログラム

